

2019年3月期 決算説明会

株式会社アイネス
代表取締役社長
森 悦郎

2019年4月26日

2019年3月期 決算

- 1 19年3月期 決算概要

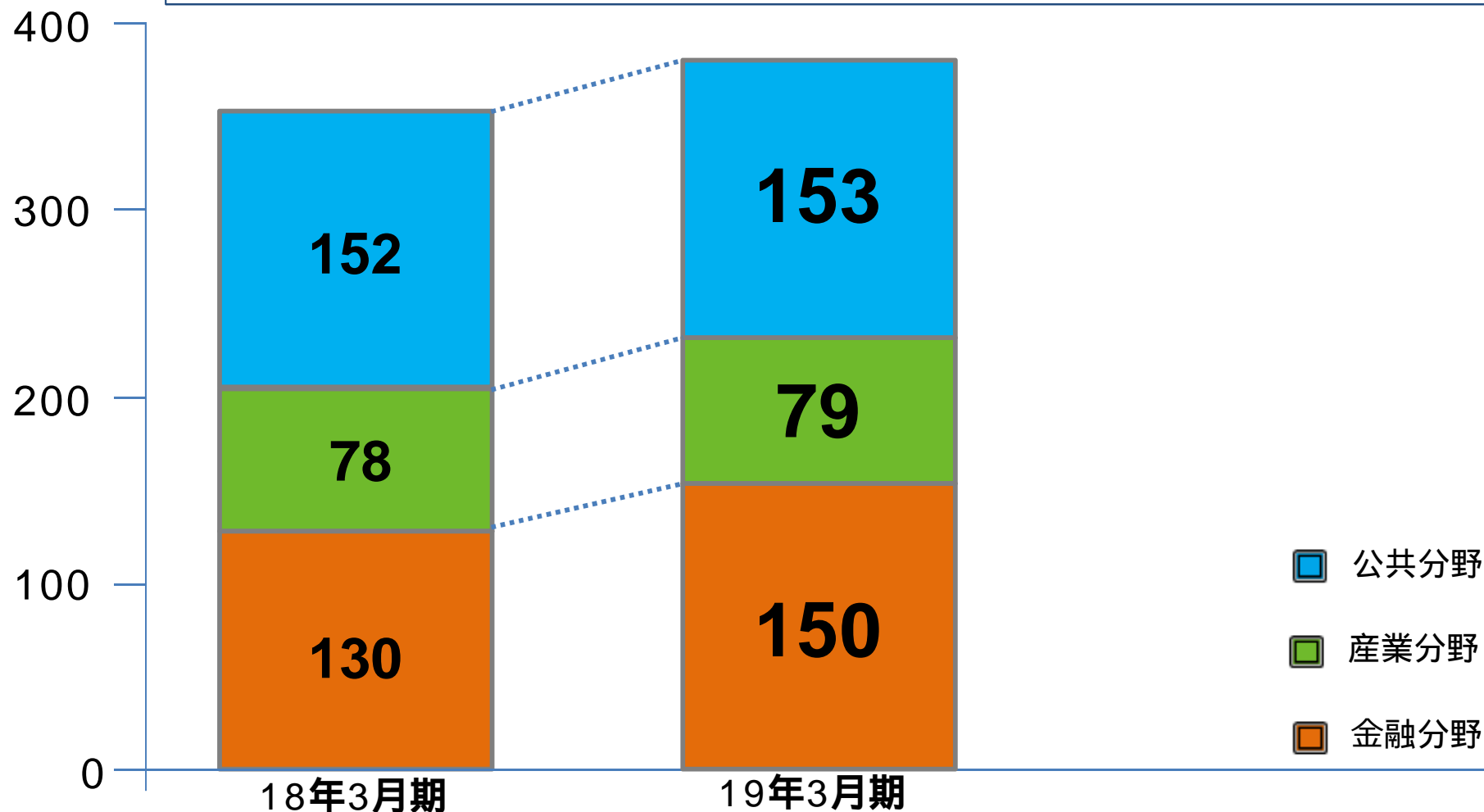
[単位：百万円]

	18年3月期	19年3月期			
	実績	実績	対前年差	対前年比	公表値
売上高	36,119	38,143	+2,023	+5.6%	37,500
売上総利益	7,452	7,580	+128	+1.7%	-
営業利益	1,608	2,169	+561	+34.9%	2,100
経常利益	1,657	2,233	+576	+34.8%	2,100
当期純利益	1,057	1,492	+434	+41.1%	1,400
配当金(円)	20.00	25.00	+5.00	+25.0%	20.00

- 2 19年3月期 業種別売上高

- ✓ 公共分野 自治体向けが増収
- ✓ 産業分野 新規顧客の開拓と既存顧客のシステム投資拡大により増収
- ✓ 金融分野 機器販売増加により増収

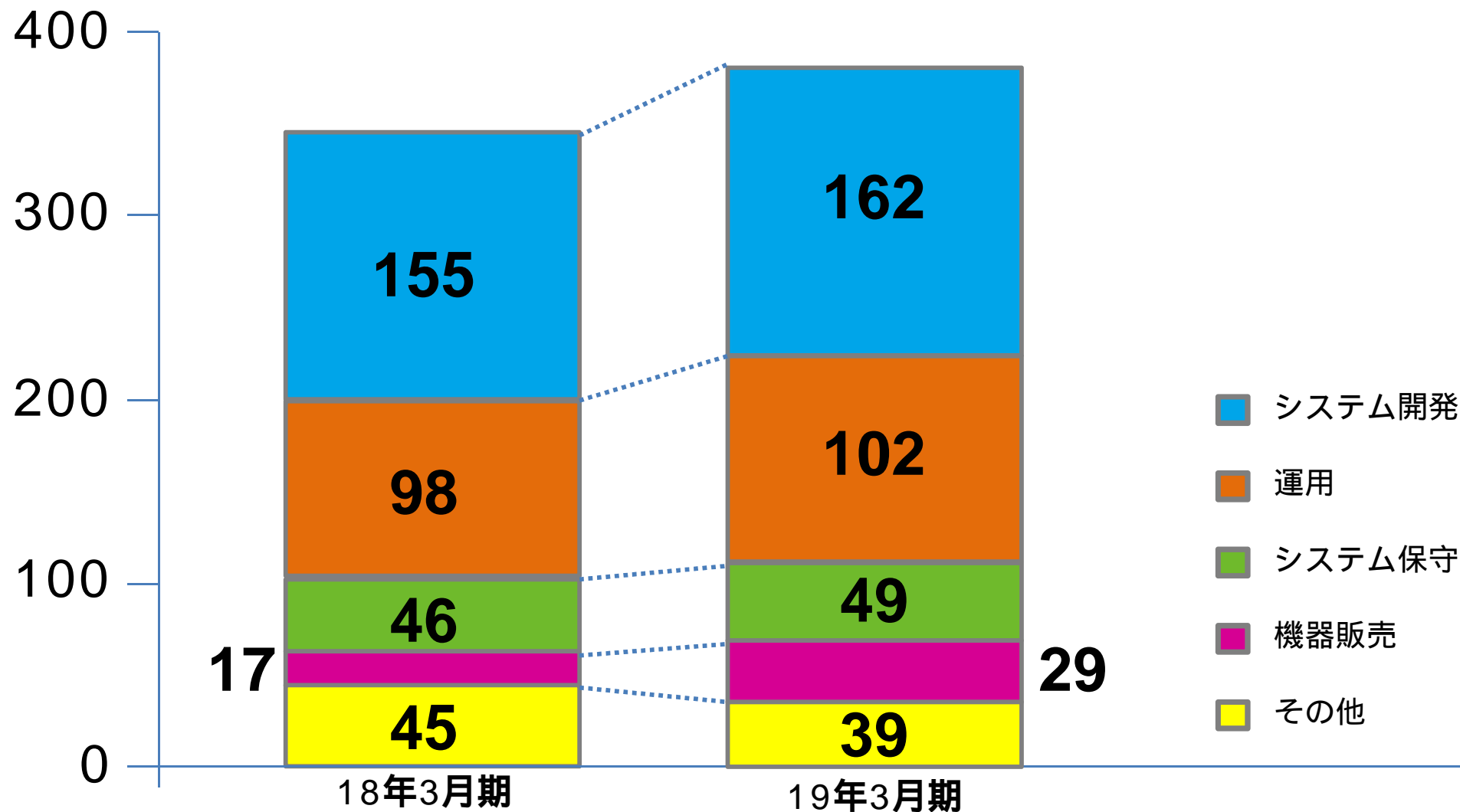
売上高 [億円]



- 3 19年3月期 商品別売上高

✓ システム開発、運用、システム保守でいずれも増収

売上高 [億円]



- 4 株主還元・資本政策

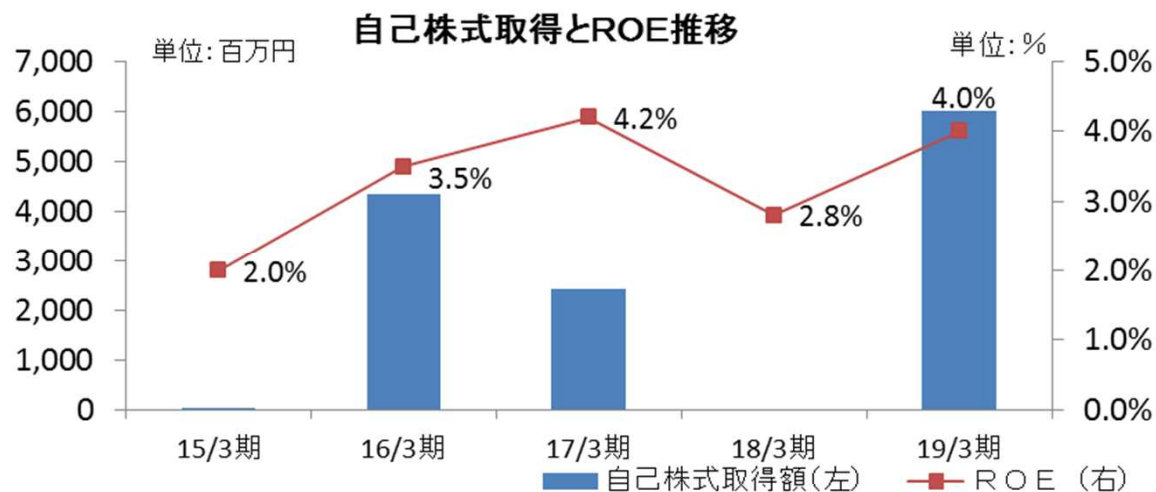
1 . 19年3月期 期末配当を5円増配（年間25円へ）

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
一株当たり配当	21円	16円	18円	20円	25円
配当性向	79.3%	33.4%	29.9%	49.4%	43.9%

14年度は記念配当 5 円を含む

2 . 自己株式の取得（15年7月～19年3月累計取得実績）

- （1）取得総額 128億円
- （2）取得株数 107万株（15/6末 発行済株式総数の33.4%）
- （3）取得期間 15年7月1日 ～ 19年3月11日
- （4）発行済株式総数 15年7月 32,100千株 ➡ 19年3月 23,900千株



ROE
15年3月期 2.0%
↓
19年3月期 4.0%

2020年3月期 業績見通し

- 1 20年3月期 業績予想

[単位：百万円]

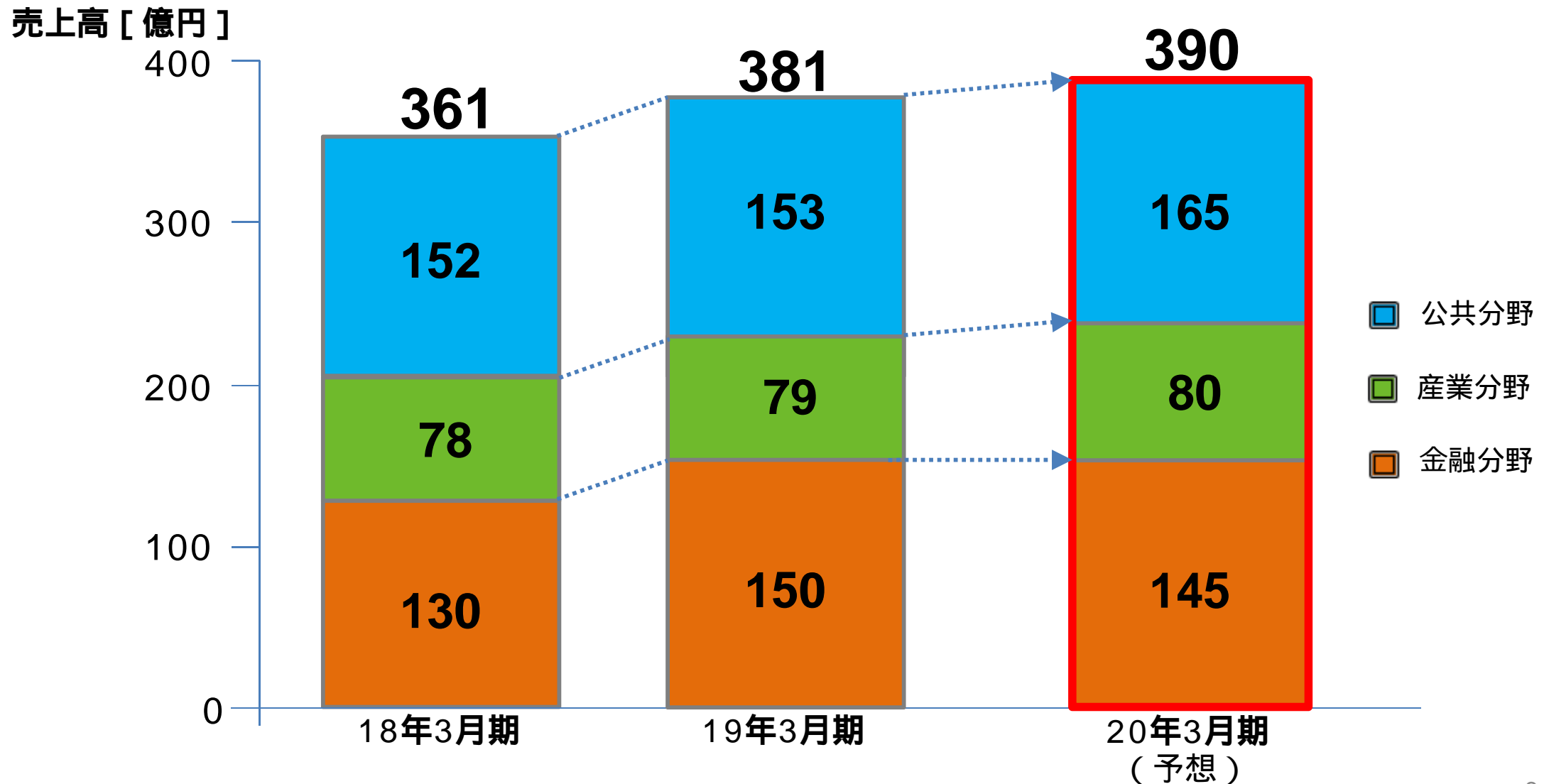
	19年3月期	20年3月期		
	実績	業績予想	対前年差	対前年比
売上高	38,143	39,000	+857	+2.2%
営業利益	2,169	a. 2,200	+31	+1.4%
経常利益	2,233	2,250	+17	+0.8%
当期純利益	1,492	b. 未定	-	-

a. 営業利益予想 : 本社移転に伴う移転コストを見込まず。

b. 当期純利益予想 : 移転コストと固定資産処分等に伴う特別損失未確定のため「未定」。

-2 20年3月期 業種別売上高

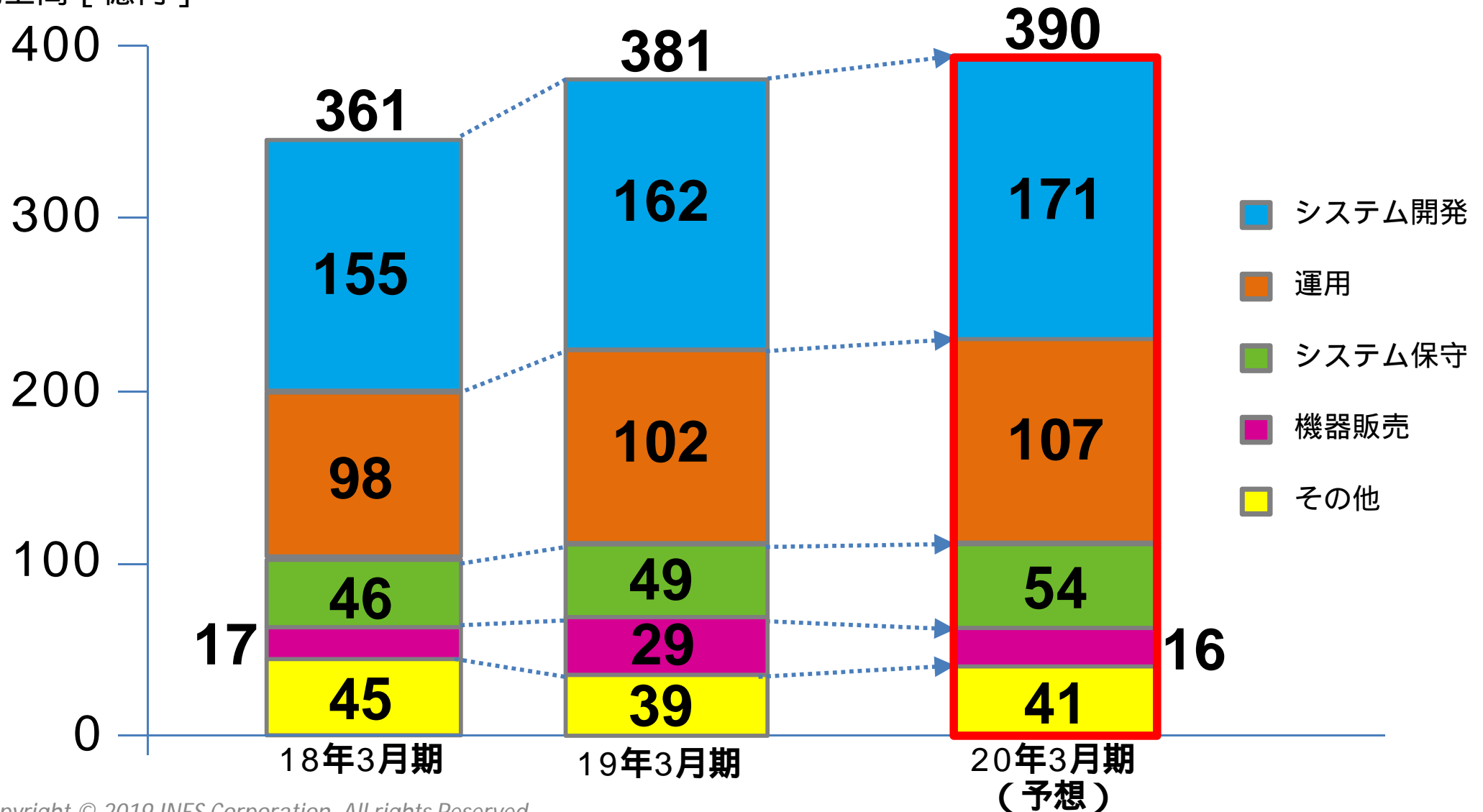
✓ 公共・産業を中心に増収見込み



-3 20年3月期 商品別売上高

✓ システム開発、運用、システム保守でいずれも増収見込み

売上高 [億円]



1. 本社売却益（売却概要）

資産の内容・所在地	売却価額	売却益
東京都千代田区三番町2-6 (土地 1,739.1 m ² 、建物(延) 8,956.34 m ²)	125億円	43億円

2. 移転コスト（首都圏拠点再編含む）

- (1) 再編対象拠点： 本社・高津オフィス・横浜事業所
- (2) 移転コスト： 約10億円～15億円（投資含む）

3. 特別損失

所有不動産の処分等を検討中

-5 20年3月期配当予想

✓ 20年3月期の配当は 年間30円 / 株（前期比+ 5 円 / 株 増配）

	19年3月期	20年3月期 予想
Q2(円)	10.00	15.00
Q4(円)	15.00	15.00
年間(円)	25.00	30.00
配当性向	43.9%	-
ROE	4.0%	-

中期経営計画

- 1 市場動向（2025年の崖）

情報サービス 市場の動向

- 成熟期に入り、リブレース需要中心へ
- 今後の成長率予測：1%～3%程度

「2025年の崖」 （経産省DX研究会）

- 「レガシーシステム」が高コスト要因
（IT支出の8割がシステム維持・運営）
- 2025年以降、年間12兆円の費用発生！

情報サービス 産業の課題

- クラウド化等の進展（新技術対応）
- 人材逼迫、スキル齟齬（構造的課題）
- ビジネスモデル寿命（受託開発の縮退）

参考資料：『新SIビジネス 全課題分析と未来戦略』（日経BP社）、『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～』（経済産業省）

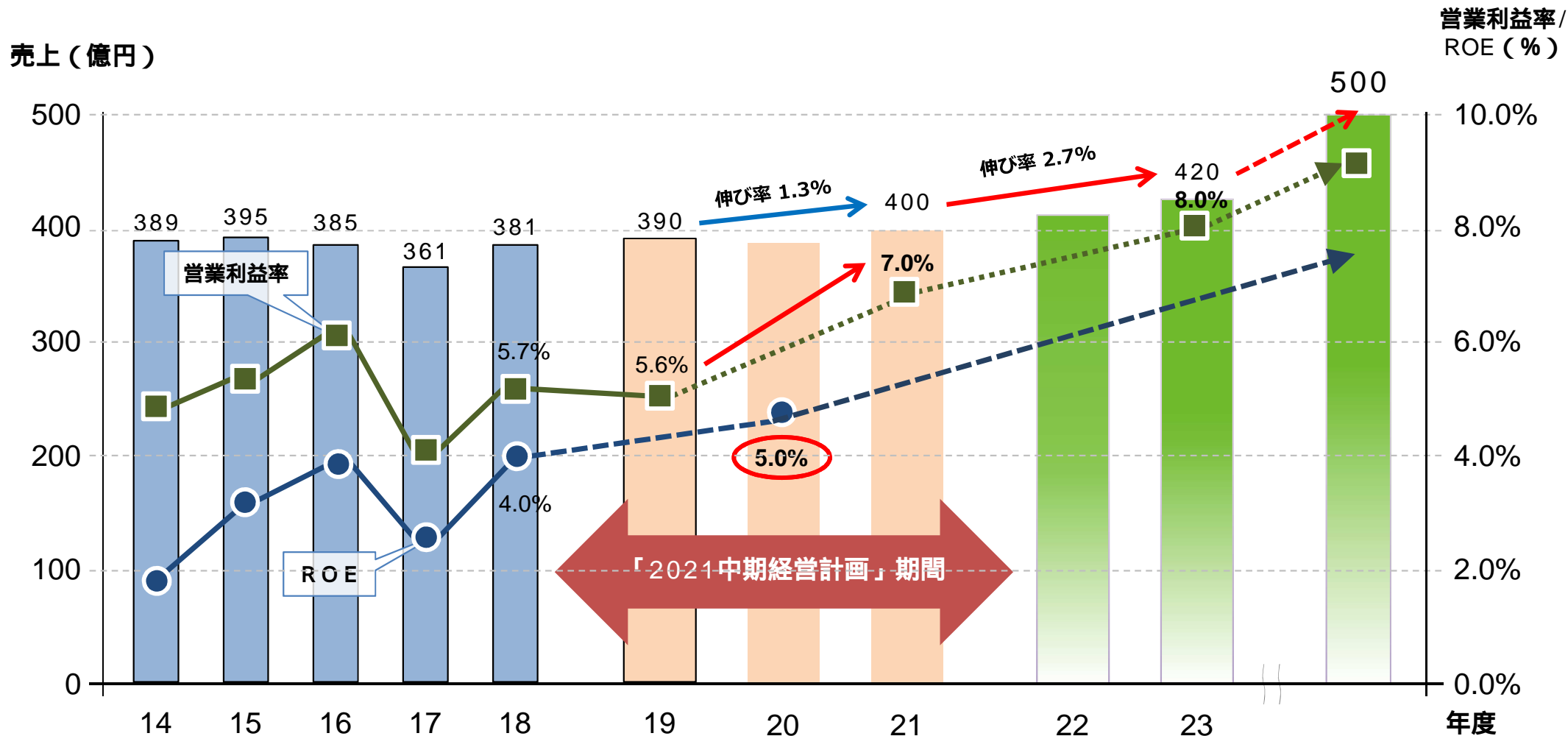
基本方針

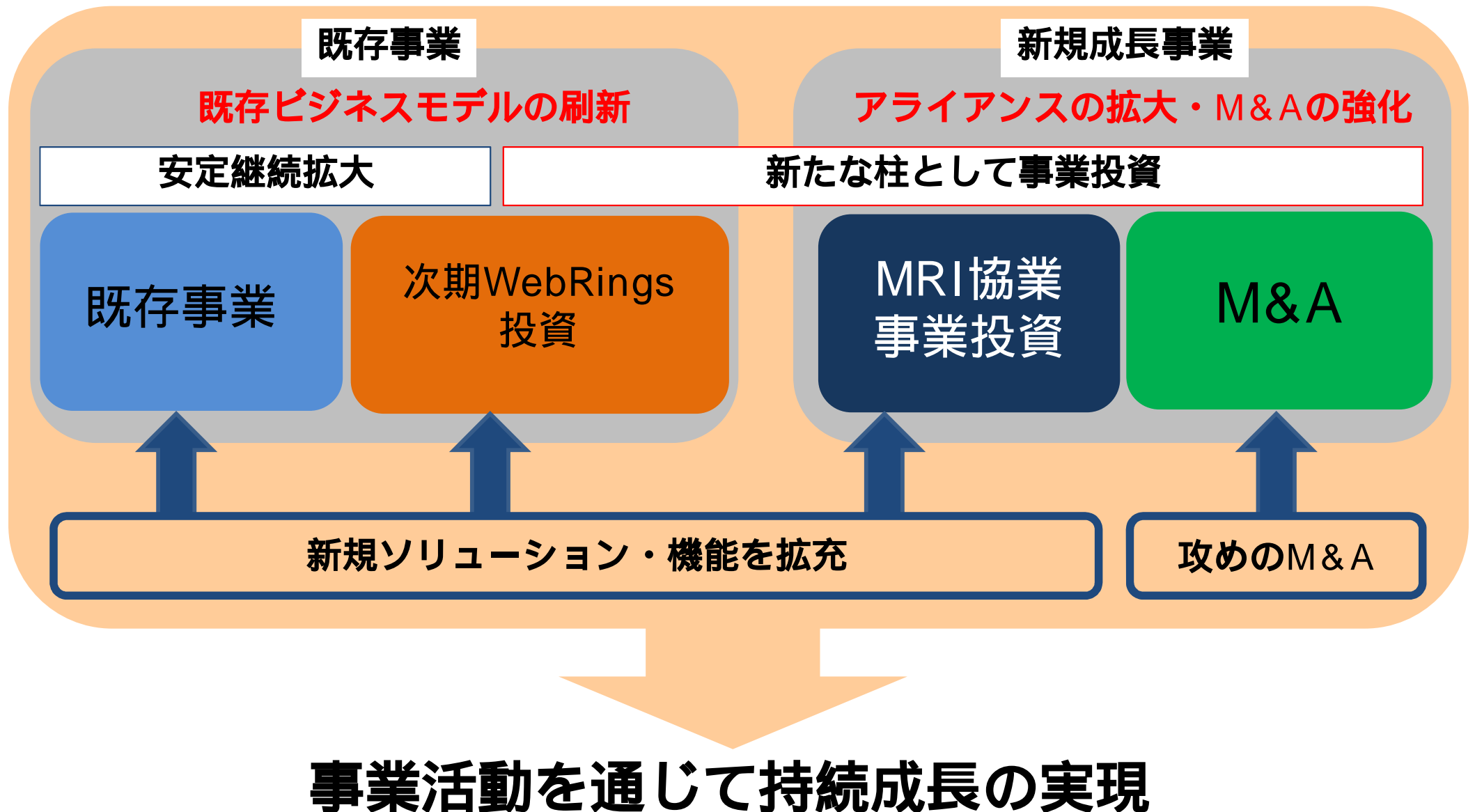
顧客基盤事業ビジネスモデルの刷新
新規成長事業の創生・拡大

財務目標

「2021中期経営計画」期間中にROE 5%クリア
21年度（最終年度）：連結売上高 400億円以上、営業利益率 7%以上
23年度（5年目）： " 420億円以上、営業利益率 8%以上

-3 「2021中期経営計画」推移





公共分野

1



✓ 次期WebRingsへの開発投資を加速

基幹系 20年度が開発のピーク、同年度よりリリース開始

福祉系 19年度より着手、20年度より順次リリース

✓ M R I グループ協業による 自治体向け新サービス展開 (A I、 R P A を活用した住民サービス向上、 職員の業務効率向上)

複数自治体との実証実験実施中



AIスタッフ
総合案内サービス

金融分野

2



- 金融機関でのFinTech、InsurTech分野への参画
- MRIグループ協業（銀行、保険分野の新規分野など）

産業分野

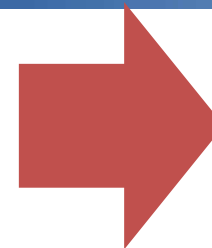
3



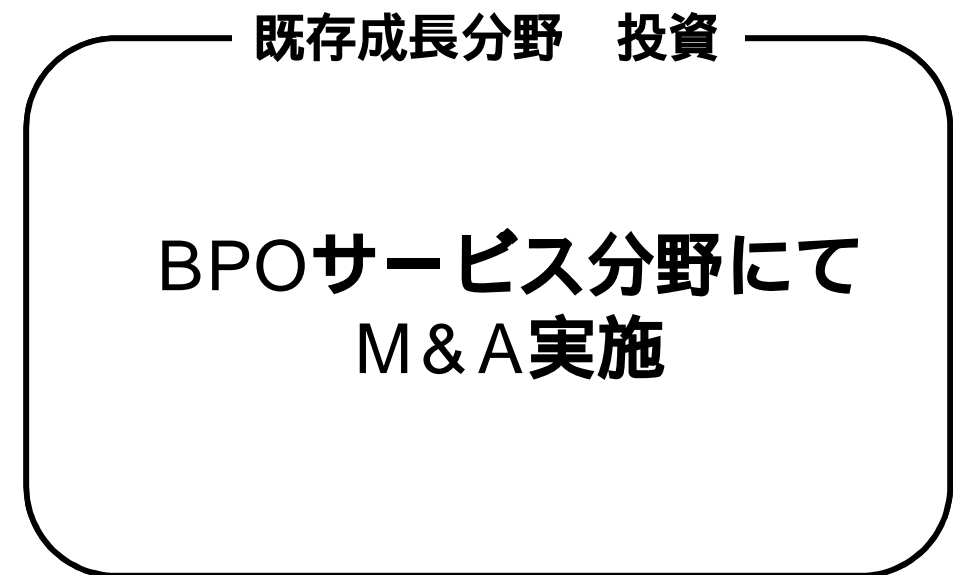
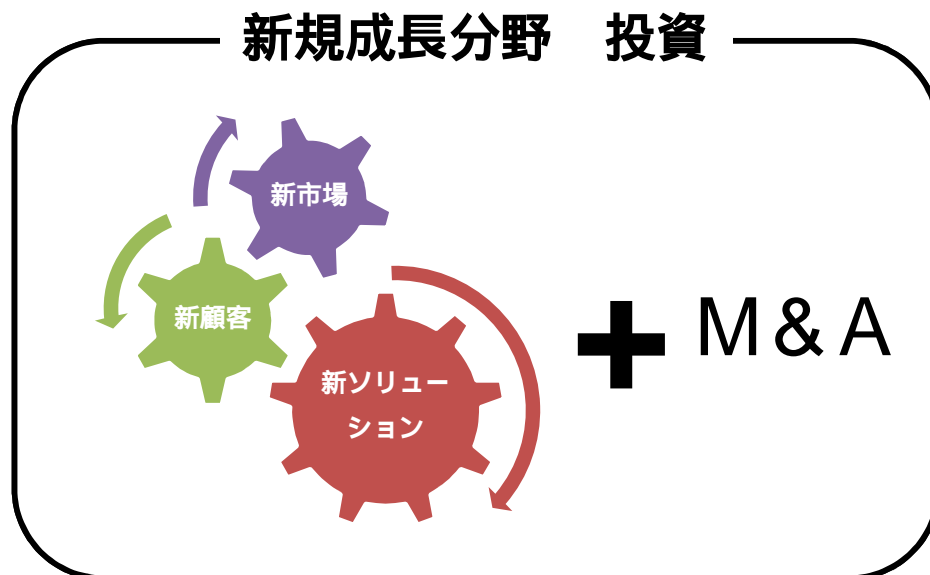
- アライアンスの推進による新規顧客の獲得
- 既存流通、製造分野への深耕
- 新サービスの開発・拡販（高速検索、ビッグデータ活用AI等）

- ◆ 他社との提携や他社の買収などを通じて成長
- ◆ 更なるシナジー効果が見込める企業買収・成長企業への投資（M&A）

受注・売上の拡大
サービスの拡充
ビジネス・パートナーのグループ化



- 同業他社
- スタートアップ企業
- VC（ベンチャーキャピタル）



-7 アライアンス戦略

アイネス総合研究所（IRI）を中心に、自主事業開発や外部とのシナジーにより、新規成長事業を強力に推進

 アイネスグループ

アイネス総合研究所（IRI）
事業開発部



自主事業開発

新事業開発研究

リサーチセンター
ラボセンター

シナジー推進

MRIグループ他

産官学連携

5年後（23年度）売上10億円超をめざす

「変革、そして成長へ」

トピックス

「新本社・新開発拠点について」

- 新オフィスでは、「ABW（Activity Based Working）」をコンセプトとした、オープンイノベーションの創出に最適化されたワークスペースを導入
- 同時に、最新のデジタルインフラ整備を行い、ワークスタイルの更なる改善を推進

移転時期 19年9月下旬（予定）



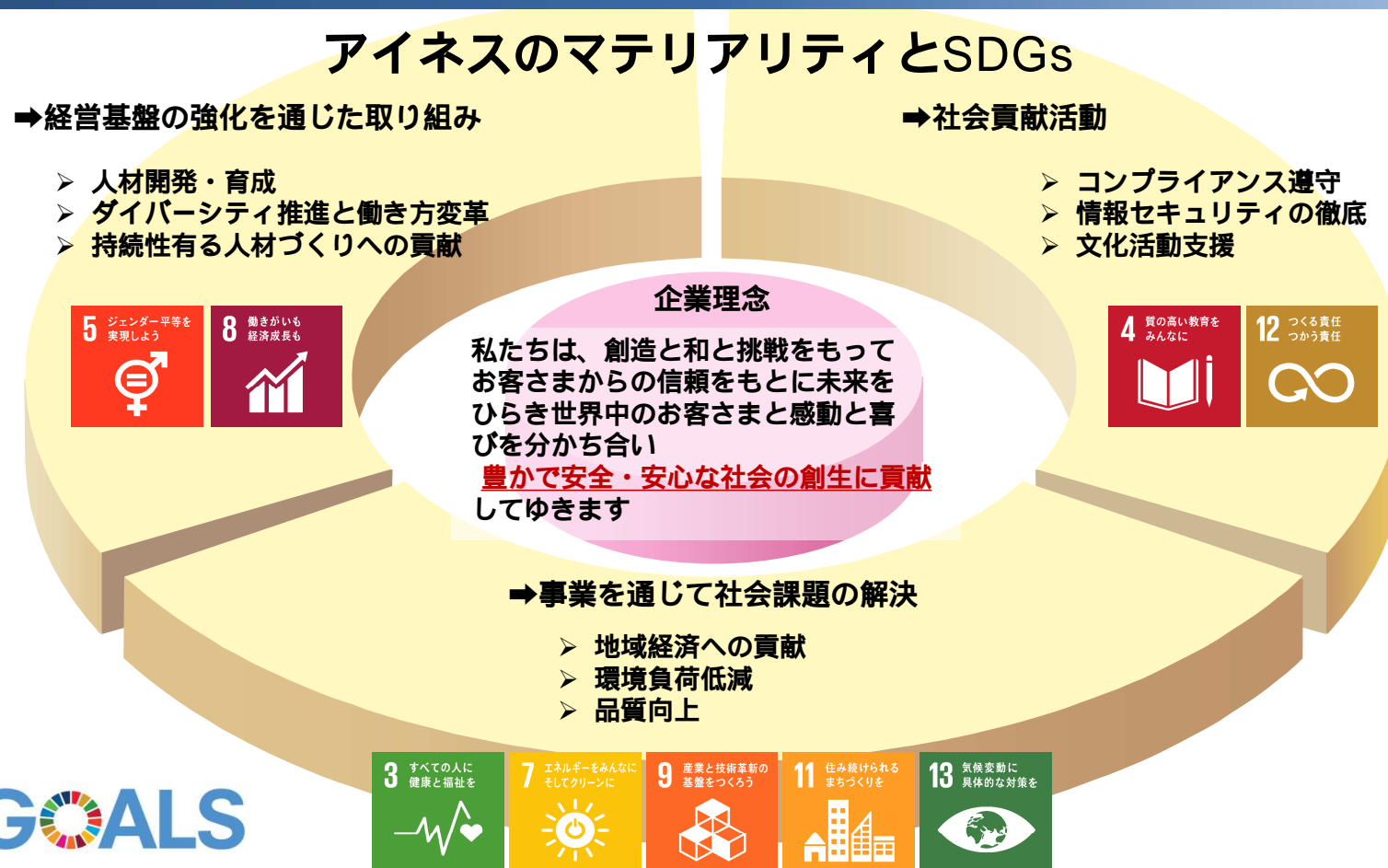
新本社・新開発拠点「グラスシティ晴海」



本社エントランスイメージ

「SDGs への取り組み」

アイネスグループにおいて、SDGsの達成に向け、
事業活動を通じて積極的に推進していきます。



「PR・イベントについて」

地方自治情報推進フェア (J-LIS2019)

日時：本年10月10日(木)～11日(金) (予定)
会場：東京ビッグサイト(青海展示棟)
主催：地方公共団体情報システム機構



昨年度の様子

Web Rings 他、自治体様向けソリューションをご紹介予定

情報セキュリティ EXPO (Japan IT Week 秋)

日時：本年10月23日(水)～25日(金) (予定)
会場：幕張メッセ
主催：リードエグジビションジャパン(株)



昨年度の様子

各種セキュリティソリューションをご紹介予定

金融国際情報技術展 (FIT2019)

日時：本年10月24日(木)～25日(金) (予定)
会場：東京国際フォーラム
主催：(株)日本金融通信社(ニッキン)



昨年度の様子

AI、RPA、セキュリティ他、各種ソリューションをご紹介予定



ご清聴ありがとうございました。

ご注意

本資料に含まれる将来の予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、内外の経済や情報サービス業界の動向、新たなサービスや技術の進展により変動することがあり得ます。従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

本資料に掲載されているサービス及び商品等は、株式会社アイネスあるいは各社等の登録商標または商標です。